

生活科学習指導案

平成 23 年 10 月 13 日（木）～ 11 月 7 日（月）
1 年 3 組 指導者 高橋 純代

I 単元名 「あきのおもちゃ だいしゅうごう」

II 考察

1 児童の実態

児童はこれまでに、校庭や学校裏の公園で春探しをしたり、夏探しをしたりする中で、学校周辺の自然とかかわる活動をしてきている。また、アサガオの種を植えて育てたり、校庭にある木の中から児童一人一人が好きな木を一本ずつ見付け、年間を通して愛着をもってかかわっていけるような活動をしてきている。このような活動を通して、児童は校庭で自然と親しみながら遊ぶ楽しさに気付いたり、自然とかかわる気持ちよさに気付いたりしている。

児童は、学校生活の中で、授業や休み時間を通して、校庭にある自然に関心をもっている。アサガオに毎日欠かさず水やりをして育てたり、学級園の花にすすんで水やりをしたりする姿も見られる。校庭にある多くの木についても関心があり、休み時間などには松の木の肌触りを確かめたり、ケヤキやサクラの木でかくれんぼをして遊んだりするなど、身近な自然に関心をもってかかわっている。

学校周辺は、木々に囲まれ自然が豊かである。しかしながら、児童が日常生活の中で、草花をつんで遊んだり、自然物を使った遊びをしたりする体験は少なくなっている。また、季節の変化を直接肌で感じたり、自然の中に身をおいて一体感をもって遊んだりするといった子ども独特の遊びをしている児童が減ってきている。

児童は、これまでに春から夏へと季節が変わったことに伴って、校庭の木々や草花の様子が変化していることなどに気付いている。また、草むしりや土遊びなどをする中で、季節によって土の中の生き物の様子が変化していることにも気付いている。

このように、対象への気付きを得ることはできているものの、単元の学習を通して、自分の成長に目を向けることができている児童は少ない。

2 教材観

本単元は、生活科の内容(5)「季節の変化と生活」と内容(6)「自然や物を使った遊び」を組み合わせ構成したものである。前単元「たのしさいっぱい あきいっぱい」は、内容(5)を中心として構成しており、単元の中では、季節が夏から秋へと変化したことに気付いたり、見つけた秋を紹介したりする学習をしてきている。本単元「あきのおもちゃ だいしゅうごう」は、内容(6)「自然や物を使った遊び」に重点をおいて、単元を構成している。

本単元は、前単元の学習を生かして、児童が、「秋の自然の中で遊んだり、秋の自然物や身近にある物でおもちゃを工夫してつくって遊んだりして、秋の遊びの面白さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができる」ことをねらいとしている。前単元では、季節の変化に気付いたり、自然と触れ合ったりすることに重点をおいていたが、本単元では、おもちゃを工夫してつくるというねらいを意識して活動することができるようにする。具体的には、木の葉や木の実で草花遊びなどを体験する中で、児童が自分で遊びを考えられるようにしたり、おもちゃのヒントになるものを見付けたりすることができるようにする。教師は、草花遊びなどのモデルを提示して、児童が自分で遊びを考えることができたという感覚をもてるように支援していく。

秋は、自然物の形や色などの特徴が一年の中で最も変化し、体の諸感覚を使って自然の面白さや不思議さを感じたり、多様な遊びを考えたりすることができる季節である。また、自然物の特徴を生かして遊ぶものをつくるのに適した季節である。木の葉は多彩な色に紅葉して落ち葉になり、木の実も地面に落ちて、児童が手にとって遊ぶことができる。自然物を使った遊びは、児童にとって身近なものである。児童は、自分から自然という対象にはたらきかけていくことができ、自分の工夫によって自分たちの生活をより楽しくすることができる。

本単元では、秋の自然を利用した遊びをし、秋の自然物や身近にある物でおもちゃをつくらせて遊ぶ活動をする。日ごろ、何気なく使っている身近にある物も、秋の自然物と組み合わせることで、生活を楽しめるものになることができる。この活動を通して、児童は、秋の自然物や身近にある物を使って自分たちの生活を楽しくしようとする気持ちをもつことができるようになる。

今回、本単元は、内容(9)「自分の成長」を関連付けて、単元構成をした。児童は、本単元の活動の中で、道具を上手に使えるようになるなど、技能面で成長していくことが期待できる。また、楽しいおもちゃをつくるために、試行錯誤して工夫を加えていく過程で、友達とかかわり合いながら、葛藤したり教え合ったりするなど、精神的にも大きく成長していくことが期待できる。

以上のことから、本単元は、自分の成長を実感する児童を育てる上で、価値のある単元であると考えられる。

3 系統

○主に、内容(5)「季節の変化と生活」、内容(6)「自然や物を使った遊び」、内容(9)「自分の成長」と関連する単元との系統

【第1学年】

単元名	単元のねらい	これまでに身に付いた力・これから身に付けたい力		
		生活への 関心・意欲・態度	活動や体験について の思考・表現	身近な環境や自分 についての気付き
がっこう だいすき	○校庭で、草花を観察し、校庭の植物と触れ合う楽しさが分かり、校庭の様子に気付くことができる。	・校庭の様子に関心をもち、校庭の植物を探したり、かかわったりしようとしている。	・自分たちで話し合って考え、探検したい場所ややってみたいことを決めている。	・校庭の植物の様子に気付いている。
なつだ いっしょ にあそぼ うよ	○夏の公園や校庭で、友達と遊んだり、自然を利用して遊んだりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しんだり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができる。	・夏の自然に関心をもち、夏の自然を利用して、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	・身近な自然や物を利用した遊びを考え、それを素直に表現している。	・夏の自然の様子や、遊びをつくり出す面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
たのしさ いっばい あきいっ ぱい	○秋の校庭や公園で、身近な植物の様子を観察して、秋の自然を利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しみ、自分たちの生活を楽しくしたりすることができる。	・秋の自然に関心をもち、秋の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶなどして、楽しく生活しようとしている。	・四季の変化や、季節によって生活の様子が変わることについて自分なりに考えたり、身近な自然や物を利用した遊びを工夫したりして、それを素直に表現している。	・夏から秋になって自然の様子が変化したり、季節によって生活の様子が変わったりしていることや、身近な自然を利用して遊びをつくり出す面白さに気付いている。

本単元 あきのおもちゃ だいしゅうごう

ふゆを たのしも う	○冬の校庭や公園で、身近にある物を使って友達と遊んだり、自然を利用して工夫して遊んだりして、遊びの面白さや自然の不思議さ、季節の変化に気付き、みんなで遊びを楽しむことができる。	・冬の自然に関心をもち、冬の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶなどして、楽しく生活しようとしている。	・四季の変化や、季節によって生活の様子が変わることについて自分なりに考えたり、身近な自然や物を利用した遊びを工夫したりして、それを素直に表現している。	・四季の変化や自然の不思議さ、季節の自然を利用して遊びをつくり出す面白さ、季節によって生活の様子が変わること、それらと自分とのかかわりに気付いている。
もうすぐ 2ねんせい	○自分の一年間の生活やできるようになったことを振り返り、今の自分との違いを実感し、自分自身の成長に気付くことと、進級への期待感と意欲をもつことができる。	・一年間のことを振り返り、2年生ですることへの期待感をもって生活している。	・自分の入学してからの成長について振り返って考え、それを素直に表現している。	・入学してから、自分のできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。

【第2学年】

2年生だ うれしいな

うごくうごくわたしのおもちゃ

Ⅲ 目標

- ・秋の自然の中で遊んだり、秋の自然物や身近にある物でおもちゃを工夫してつくって遊んだりして、秋の遊びの面白さに気付き、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができる。
- ・自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分のできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活できる。

Ⅳ 評価規準

○生活への関心・意欲・態度

- ・秋の自然の中で遊んだり、秋の自然物や身近にある物でおもちゃをつくったりすることに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。
- ・これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。

○活動や体験についての思考・表現

- ・秋の自然の中で遊んだり、秋の自然物や身近にある物でおもちゃを工夫してつくったりしながら、遊びの約束やルールを考えて、みんなで楽しく遊んでいる。
- ・自分の成長に希望をもち、これからの生活について考えている。

○身近な環境や自分についての気付き

- ・秋の自然の中で遊んだり、秋の自然物や身近にある物を利用しておもちゃをつくったりする面白さや、みんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。
- ・自分自身のよさが分かり、これからも成長できることに気付いている。

V 指導計画(全10時間予定)

週	時	ねらい	主な学習活動	指導上の留意点(●研究上の手だて)	評価項目
であう	1	校庭や学校周辺を散歩したり遊んだりする活動を通して、秋の自然を利用した遊びへの思いをもつことができる。	○校庭や学校周辺の道路、公園への散歩をする。 ○公園や校庭で秋の自然を使った遊びを考えて遊ぶ。 ○秋の自然を利用した遊びへの意欲をもつ。	○チカラシバやススキ、コスモス、メヒシバが生えているコースを散歩することで、児童が草花遊びをすることができるようにする。 ●モデルを提示し、児童が触れて遊ぶようにして、児童の先行経験と秋のおもちゃづくりを結び付けて考えられるように言葉かけをする。…(研究の見通し1) ○次時は、秋の自然を利用して遊ぶものをつくることを予告し、活動への意欲をもてるようにする。	【関・意・態】校庭や学校周辺を散歩したり遊んだりする活動を通して、秋の自然を利用した遊びへの思いをもつようになる。 【関・意・態】これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。
	2	秋の自然物や身近にある物に触れる活動を通して、おもちゃづくりに意欲をもち、自分のつくりたい物考えることができる。	○秋の自然物や身近にある物を使って、自分が遊んでみたいおもちゃを考える。 ○モデルに触れて遊びながら、自分がつくりたいおもちゃを考える。 ○おもちゃづくりへの意欲をもつ。	○秋の自然物と身近にある物を使って自分が遊んでみたいおもちゃを考えることを伝える。 ●モデルを提示し、児童が触れて遊ぶようにして、児童の先行経験と秋のおもちゃづくりを結び付けて考えられるように言葉かけをする。…(研究の見通し1) ●児童が、自分がつくりたいおもちゃを「ふりかえりカード」に絵や言葉で表現するようにして、「学習スタート時の思いや願い」を記録として残しておくようにする。(単元の終末で振り返りの手掛かりとして扱う)	【関・意・態】秋の自然物や身近にある物に触れる活動を通して、おもちゃづくりに意欲をもち、自分のつくりたい物を考えている。 【関・意・態】これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。
はたらきかける	5	自分がつくったおもちゃを、「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、工夫を考えることができる。	○試行錯誤して、自分のつくりたいおもちゃづくりをすすめる。 ○自分のおもちゃを楽しめるようになるように工夫する。 ○材料の形や色などの組み合わせを工夫したり、特徴を生かしたりしながら、おもちゃづくりをすすめる。	●前時の児童の活動の見取りから、モデルを準備しておく。 ●モデルを提示し、児童が見たり触れたりするようにして「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、児童が自分のおもちゃの工夫を考えられるようにする。…(研究の見通し2) ●「ふりかえりカード」に本時の活動を絵や言葉で表現するようにして、児童が本時の学習のめあてを達成することができたか確認できるようにする。 【振り返りの視点】①「人とのかかわり」②「できるようになったこと」③「工夫したこと」	【思考・表現】自分がつくったおもちゃを、「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、工夫を考えている。 【思考・表現】自分の成長に希望をもち、これからの生活について考えている。
	6	自分がつくったおもちゃを工夫し、約束やルールを考えて、友達と一緒に楽しく遊ぶことができる。	○友達と遊んで気付いたことを生かして、おもちゃづくりを発展させる。 ○グループの児童同士でおもちゃで遊び、楽しくなるよう工夫する。 ○みんなで一緒に楽しく遊べるように、遊びの約束やルールを考える。 ○自分のおもちゃを使って、友達と一緒に遊ぶ。 ○友達と一緒に遊んだ感想を伝え合う。	●前時の児童の活動の見取りから、モデルを準備しておく。 ○同じ種類のおもちゃをつくらせている児童同士でグループ編成をしておき、座席の移動をしておく。 ●モデルを提示し、児童が見たり触れたりするようにして「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、児童が自分のおもちゃの工夫を考えられるようにする。…(研究の見通し2) ●「ふりかえりカード」に本時の活動を絵や言葉で表現するようにして、児童が本時の学習のめあてを達成することができたか確認できるようにする。 ○教室内を時間内に回れるようにして、遊ぶ時間を十分に確保できるようにする。 ●友達のおもちゃで遊んだ感想や賞賛を言葉にして伝え合うようにする。(次時の振り返りの手掛かりとして扱う)	【思考・表現】自分がつくったおもちゃを工夫し、約束やルールを考えて、友達と一緒に楽しく遊んでいる。 【思考・表現】自分の成長に希望をもち、これからの生活について考えている。
	7				
8					
9					

ふりかえる	10	活動を振り返り、対象や人とのかかわりを通して成長した自分に気付くことができる。	○単元始めの自分と現在の自分を比べて、成長したことに気付く。 ○単元を振り返り、自分の成長を発表し合う。	●「学習スタート時の思いや願い」「成果物」「活動の発表における他者からの評価」を振り返りの手掛かりとして提示して、児童が単元始めから現在までの自分を振り返れるようにする。・・・(研究の見通し3) ●「人とのかかわり」「できるようになったこと」「工夫したこと」の視点を問いかけ、児童が学習全体の具体的な自分の取組を振り返れるようにする。・・・(研究の見通し3) ●「ふりかえりカード」に文例を提示して、児童がこれまでの活動における自分を振り返り、言葉で表現できるようにする。	【気付き】活動を振り返り、対象や人とのかかわりを通して成長した自分に気付いている。 【気付き】自分自身のよさが分かり、これからも成長できることに気付いている。
-------	----	---	---	--	--

VI 指導方針

- 本単元は、生活科の内容(5)と内容(6)を組み合わせ、内容(9)「自分の成長」を関連付けて構成する。
- 単元において、自分の成長を実感することができるように、「である」「はたらきかける」「ふりかえる」という単元構成を組む。
- 児童が、「自分でできた」「自分で考えた」と思えるように、児童の思いや願いに沿った支援をする。
- 児童の活動を見取り、単元のねらいを達成することができるよう、「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の四視点から支援する。
- 児童が、先行経験と対象とを結び付けて考えられるようにしたり、工夫を考えられるようにしたりするために、「モデル」を準備して提示する。
- 児童が活動における自分自身のことを振り返ることができるように、振り返りの手掛かりとなる「学習スタート時の思いや願い」「成果物」「活動の発表における他者からの評価」を蓄積していく。
- 具体的な活動や体験の後に、児童が自分のことを振り返ることができるように、「人とかかわり」「できるようになったこと」「工夫したこと」を振り返る視点として、「ふりかえりカード」に記録する時間を設定する。

VII 本時の学習(全10時間)

1 第1・2時

(1) ねらい

校庭や学校周辺を散歩したり遊んだりする活動を通して、秋の自然を利用した遊びへの思いをもつことができる。

(2) 準備

教師：「試す」「比べる」「たとえる」ことができるモデル、身近にある物(空き箱、ペットボトル)

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点(●研究上の手だて)	評価項目(方法)
○本時は、校庭と学校周辺の道路、公園を散歩することを知る。 ・散歩だ！嬉しいな。 ・公園に行くのは夏以来だな。	10	○校庭と学校周辺の道路、公園への散歩を促すことで、本時の活動への意欲をもてるようにする。 ○安全に散歩することができるように、安全な道路の歩き方について確認する。	■校庭や学校周辺を散歩したり遊んだりする活動を通して、秋の自然を利用した遊びへの思いをもつようになる。(対話・観察)
○本時のめあてをつかむ。 ○公園まで散歩をする。 ○公園で、秋の自然を使って遊ぶ。 ・ねこじゃらしで毛虫遊びしようよ。 ・くつつき虫をくつつけて遊ぼうよ！ ・チカラシバがひげになったよ。 ・コスモスのパラシュートだ！	30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時のめあて 秋の自然を使った遊びを見付けよう </div> ○校庭の落葉樹、常緑樹、香りを発する花(キンモクセイ等)などの近くを通りながら、公園へと向かう。 ○チカラシバやススキ、コスモス、メヒシバが生えているコースを散歩することで、児童が草花遊びをすることができるようにする。 (予想される児童の遊びの例) ・チカラシバを使った毛虫遊び、いがぐり、ひげ ・ススキの葉を使ったすすき飛ばし ・コスモスやオシロイバナを使ったパラシュート ・メヒシバを使った王冠づくり	■これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。(対話・観察)
○モデルに触れて遊び、自		●モデルを提示し、児童が触れて遊ぶようにして、児童の先	

<p>分の先行経験と、秋のおもちゃづくりを結び付けて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の時に、この草で王冠をつかったことがあるよ。 ・竹とんぼみたいだな。 ・ぼくも飛ばしてみよう。 ・葉っぱをお皿にして泥団子を載せて遊んだことがあるよ。 ・葉っぱの穴から覗いたら、お面になったよ。 ・葉っぱで魚がつくれそうだな。 <p>・これから生活の時間におもちゃづくりをするのが楽しみだな。</p> <p>○学校の校庭に移動する。</p>	<p>行経験と秋のおもちゃづくりを結び付けて考えられるように言葉かけをする。・・・(研究の見通し1)</p> <p>提示するモデルの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メヒシバの竹とんぼ遊び(「たとえる」ことができるモデル) ・形や色の違う葉(「比べる」ことができるモデル) <p>T:「この草(メヒシバ)でどんな遊びをしたことがありますか?」 T:「(竹とんぼのようにメヒシバを飛ばして見せて)この草をこうやって飛ばすと何に似てますか?知っているものにたとえてみましょう」</p> <p>T:「この葉っぱ(児童の顔と同じ大きさのもの)でどんな遊びをしたことがありますか?」 T:「(葉に穴を二つ開けて)この葉っぱでどうやって遊べますか?」 T:「この葉っぱ(紅葉した小さいもの)でどんな遊びをしたことがありますか?」 T:「(葉っぱを地面に並べて)何かの絵になりそうですね」</p> <p>T:「幼稚園や保育園で、草花遊びをしたことがある人がいるんですね。これから学習する秋のおもちゃづくりに生かせそうですね」</p>
<p>○校庭を散歩し、校庭で秋の自然を使った遊びを考えて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリがいっぱい落ちてるよ。 ・黄色や茶色の葉っぱがあるよ。 ・ドングリや葉っぱを拾いたいな。 ・落ち葉と枝を地面に並べてお絵描きしてみよう。 ・ドングリを飛ばす競争をしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリをペットボトルに入れて音を鳴らしてみよう。 ・箱の上にねこじゃらしを載せて、箱をたたくと面白いよ。 	<p>5</p> <p>35</p> <p>○校庭のドングリやマツボックリ、イチョウの落ち葉がある場所を散歩することで、校庭の秋の自然物で遊ぶようにする。</p> <p>T:「ドングリが落ちてますね。ドングリでどんな遊びができますか?」 T:「マツボックリでどんな遊びができますか?」 T:「イチョウの落ち葉でどんな遊びができますか?」</p> <p>○遊びを発展させることができるように、身近にある物を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱(ねこじゃらしのとんとん相撲など) ・ペットボトル(ドングリマラカスなど) <p>T:「自然の物に、身近にある物を組み合わせるとどんな遊びができますか?」</p>
<p>○本時の学習を振り返り、楽しかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草で竹とんぼみたいに遊べて楽しかったよ。 ・ドングリをペットボトルに入れて振ったら面白い音がして楽しかったよ! <p>○次時の活動内容を知り、秋の自然を利用した遊びへの意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと木の実や葉っぱで遊んでみたいな! ・秋の自然を使って遊ぶのは楽しいな。 	<p>10</p> <p>○児童が自分の遊びのどんなところが楽しかったか、他の児童に伝えるように発表できるよう促す。</p> <p>T:「今日は、公園や校庭で秋の自然を使った遊びをいろいろ考えることができましたね。自分で考えた遊びのどんなところが楽しかったか発表してください」</p> <p>○次時は、秋の自然を利用して遊ぶものをつくることを予告し、次時の活動への意欲をもてるようにする。</p>

2 第3・4時

(1) ねらい

秋の自然物や身近にある物に触れる活動を通して、おもちゃづくりに意欲をもち、自分のつくりたい物を考えることができる。

(2) 準備

児童：児童が集めた秋の自然物、身近にある物、工作道具

教師：「試す」「比べる」「たとえる」ことができるモデル、秋の自然物、身近にある物の予備、工作道具、「ふりかえりカード」

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点(●研究上の手だて)	評価項目(方法)
<p>○前時までの活動を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の実や葉っぱで遊んで楽しかったよ！ <p>○本時の活動は、秋の自然物と身近にある物を使って、自分が遊んでみたいおもちゃを考えることを知る。</p>	10	<p>○前時の活動の様子を撮った記録写真を教室に掲示しておき、校庭や公園で秋の自然物を使って遊んだことを児童が想起できるようにする。</p> <p>T:「前回の生活の時間は、木の実や葉で遊んで楽しかったですね」</p> <p>○本時は、秋の自然物と身近にある物を使って自分が遊んでみたいおもちゃを考えることを伝える。</p> <p>T:「今日は、秋の自然の物と身近にある物を使って、自分が遊んでみたいおもちゃを考えましょう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本時のめあて 秋の自然と身近にある物を使ったおもちゃを考えよう</p> </div>	<p>■秋の自然物や身近にある物に触れる活動を通して、おもちゃづくりに意欲をもち、自分のつくりたい物を考えている。(対話・観察・ふりかえりカードの記入)</p>
<p>○モデルに触れて遊びながら、先行経験を想起して、自分がつくってみたいおもちゃを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園でドングリごまで遊んだよ。 ・ぼく、上手に回せるよ。 ・またドングリで遊んでみたいな。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分でドングリに穴を開けてみたいな。 ・ドングリと紙コップで何ができるかな。 	35	<p>●モデルを提示し、児童が触れて遊ぶようにして、児童の先行経験と秋のおもちゃづくりを結び付けて考えられるように言葉かけをする。・・・(研究の見通し1)</p> <p>提示するモデルの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリごま(「試す」ことができるモデル) ・ドングリやじろべえ(「試す」ことができるモデル) <p>T:「〇さんは、ドングリごまを回すのが上手ですね」</p> <p>T:「〇さんは、ドングリやじろべえで遊ぶのが上手ですね」</p> <p>T:「幼稚園や保育園で、ドングリを使った遊びをしたことがある人がいるんですね。これから学習する秋のおもちゃづくりに生かせそうですね」</p> <p>○児童が集めたものや材料コーナーにあるいろいろな秋の自然物や身近にある物を試して遊んでみるよう促す。</p> <p>T:「いろいろな材料を組み合わせて遊んでみましょう。たくさん試して楽しいおもちゃが考えられるといいですね」</p>	<p>■これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。(対話・観察)</p>
<p>○前時に引き続き、秋の自然物や身近にある物をいろいろ試して遊び、自分がつくってみたいおもちゃを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇さんのおもちゃは面白いな。 ・私も楽しいおもちゃを考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・私も本に載っているドングリのおもちゃをつくってみたいな。 	30	<p>○遊びを工夫して遊んでいる児童に、考えたおもちゃを紹介するよう促し、他の児童がその児童の考えたおもちゃで遊べるようにする。</p> <p>T:「〇さんが考えているおもちゃは楽しそうですね。みなさんも〇さんのおもちゃで遊ばせてもらいましょう」</p> <p>○ヒントコーナーにおもちゃづくりの本などの資料をおいておき、おもちゃづくりのイメージをもてない児童が考えるヒントにできるようにする。</p> <p>T:「ヒントコーナーの本に載っているおもちゃも楽しそうですね」</p>	
<p>○本時の学習のめあてを達成することができたか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のつくりたいおもちゃを考えたいよ！ ・絵でかくとこんなおもちゃだよ。 	15	<p>●児童が、自分がつくって遊んでみたいおもちゃを「ふりかえりカード」に絵や言葉で表現するようにして、「学習スタート時の思いや願い」を記録として残しておけるようにする。(単元終末で振り返りの手掛かりとして扱う)</p> <p>T:「『ふりかえりカード』に自分がつくりたいおもちゃとそのおもちゃで友達とどんな遊びをしたいか、絵や言葉でかいてみましょう」</p> <p>○児童が自分がつくって遊んでみたいおもちゃを、絵や言葉などで表現するよう促す。</p> <p>○児童が自分がつくってみたいおもちゃを使って、友達と一緒にやってみたいことを絵や言葉などで表現するよ</p>	

<p>○次時の見通しをもつ。 ・つくりたいおもちゃが決まったから、続きをやりたいな。</p> <p>○後片付けをする。</p>	<p>う促す。</p> <p>○児童が次時にやってみたいことを問いかけることで、次時の活動への見通しや意欲をもてるようにする。 T:「次の生活科の時間はどんなことをやってみたいですか」</p>
---	--

3 第5・6時

(1) ねらい

自分がつくったおもちゃを、「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、工夫を考えることができる。

(2) 準備

児童：児童が集めた秋の自然物、身近にある物、工作道具

教師：「試す」「比べる」「たとえる」ことができるモデル、秋の自然物、身近にある物の予備、工作道具、「ふりかえりカード」

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点(●研究上の手だて)	評価項目(方法)
<p>○前時までの活動を思い出す。 ・ドングリで遊んで楽しかったよ!</p> <p>○本時の活動は、自分のおもちゃを工夫して楽しく遊べる物にすることを知る。 ・楽しいおもちゃになるといいな。</p>	10	<p>●前時の児童の活動の見取りから、モデルを準備しておく。</p> <p>○前時につくり始めたおもちゃを、工夫して楽しく遊べる物にするよう伝えることで、本時の活動の見通しをもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本時のめあて 材料を工夫したり、友達と一緒に活動したりして、おもちゃを楽しく遊べるものにしよう</p> </div>	<p>☑自分がつくったおもちゃを、「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、工夫を考えている。(対話・観察)</p>
<p>○材料に触れながら試行錯誤して、自分のつくりたいおもちゃづくりをすすめる。</p> <p>○モデルに触れて遊びながら、自分のおもちゃを楽しめるように工夫する。</p> <p>・先生も私のおもちゃと一緒に遊ぼうよ。 ・このおもちゃは、ドングリをここに当てて遊ぶんだよ。</p>	35	<p>○秋の自然物と身近にある物を使ったおもちゃを考えられた児童には、なぜそのおもちゃを考えたのかを問いかけることで、材料の特徴に気付けるようにする。 T:「○さんは、葉っぱを並べて絵を描いていますね。葉っぱの色がいろいろあるんですね」 T:「□さんは、ドングリを使ったおもちゃを考えていますね。ドングリには、転がる物やあまり転がらない物があるんですね。よく転がるドングリはどんな形をしているのでしょうか」</p> <p>●モデルを提示し、児童が見たり触れたりするようにして、「対象」「利用の仕方」「他者とのかかわり」「表現」の視点から、児童がおもちゃの工夫を考えられるようにする。・・・(研究の見通し2)</p> <p>提示するモデル例 ・ドングリ鉄砲(「試す」ことができるモデル) ・けん玉の材料(「比べる」ことができるモデル) T:「モデルで実際に遊んでみましょう。自分のおもちゃを工夫するヒントになりそうですね」</p> <p>○児童がつくっているおもちゃで遊んでみることで、児童が自分のつくりたいおもちゃづくりに向かっているかを見取り、一人一人に応じて支援する。 T:「(児童のおもちゃと一緒に遊びながら) ○さんのおもちゃは、～のようにして遊ぶんですね。○さんは、～のようにして遊ぶおもちゃをつくりたいんですね」</p>	<p>☑自分の成長に希望をもち、これからの生活について考えている。(対話・観察)</p>
<p>○前時に引き続き、材料の形や色などの組み合わせを工夫したり、特徴を生か</p>	30	<p>○材料の特徴を生かしたおもちゃづくりができるように、いろいろな材料を試してみるよう言葉かけをする。</p>	

<p>したりしながら、おもちゃづくりをすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う材料でつくってみたら、おもちゃが面白くなってきたよ。 ・ドングリを飛ばす輪ゴムの位置を変えたら、遠くに飛ぶようになったよ。 ・みんなで競争する時は、決まりがないとうまく行かないなあ。 ・もっと楽しいおもちゃにするには、どうしたらいいのかな。 	<p>T:「ドングリをマツボックリに換えて試してみたり、紙コップを牛乳パックに換えてみたりしたら、どうなるでしょう」</p> <p>○児童が試行錯誤しながらおもちゃを工夫していけるように言葉かけをして、児童の遊びが停滞しないようにする。</p> <p>T:「〇さんのおもちゃは、工夫するともっとドングリが遠くに飛びそうですね」 T:「〇さんのおもちゃで、みなさんと競争してみると楽しそうですね」</p>
<p>○本時の学習のめあてを達成することができたか確認する。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間は完成させて友達といっぱい遊びたいな！ <p>○後片付けをする。</p>	<p>15</p> <p>●「ふりかえりカード」に本時の活動を絵や言葉で表現するようにして、児童が本時の学習のめあてを達成することができたか確認できるようにする。 【振り返りの視点】①「人とのかわり」②「できるようになったこと」③「工夫したこと」</p> <p>○児童が自分のおもちゃを工夫したところを、絵や言葉などで表現できるよう促す。</p> <p>○児童が本時の活動の中で、友達と一緒に活動したことについて、絵や言葉などで表現するよう促す。</p> <p>○児童が次時にやってみたいことを問いかけることで、次時の活動の見通しや意欲をもてるようする。</p> <p>T:「次の生活科の時間はどんなことをやってみたいですか」</p>

4 第7・8・9時

(1) ねらい

自分がつくったおもちゃを工夫し、約束やルールを考えて、友達と一緒に楽しく遊ぶことができる。

(2) 準備

児童：児童がつくったおもちゃ、児童が集めた秋の自然物、身近にある物、工作道具

教師：「試す」「比べる」「たとえる」ことができるモデル、秋の自然物、身近にある物の予備、工作道具、「ふりかえりカード」

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点(●研究上の手だて)	評価項目(方法)
<p>○前時の活動を思い出し、本時にどんな活動をしたいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばってつくったおもちゃで、みんなで楽しく遊びたいな！ <p>○本時の活動は、おもちゃを工夫して作り、約束やルールを考えて、友達と一緒に楽しく遊ぶことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃで遊んで勝ったらごほうび 	10	<p>●前時の児童の活動の見取りから、モデルを準備しておく。</p> <p>○あらかじめ、同じ種類のおもちゃをつくらしている児童同士でグループを編成しておき、座席の移動をしておく。</p> <p>○前時につくったおもちゃで何をするか問いかけることで、本時の活動の見通しがもてるようにする。</p> <p>T:「これまでがんばっておもちゃをつくりましたね。この後、おもちゃで何をやってみたいですか？」</p> <p>○本時のめあては、おもちゃを工夫して作り、約束やルールを考えて、友達と一緒に楽しく遊ぶことを確認する。</p> <p>○おもちゃで遊ぶ時の約束やルールには、どんなものがあれば楽しくなるか例示する。</p> <p>T:「おもちゃで遊ぶ時に、どんなことがあると嬉しいですか？」</p>	<p>○自分がつくったおもちゃを工夫し、約束やルールを考えて、友達と一緒に楽しく遊んでいる。 (対話・観察)</p> <p>○自分の成長に希望をもち、これからの生活</p>

<p>があるといいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとおもちゃを面白くしたいな！ ・賞品をつくらうかな。 	<p>T:「遊ぶ時の約束やルールがあるといいですね」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本時のめあて おもちゃを工夫したり、遊ぶ時の約束やルールを考えて 友達と一緒に楽しく遊ぼう</p> </div>	<p>について考 えている。 (対話・観 察)</p>
<p>○モデルに触れて遊びながら、自分のおもちゃを楽しめるように工夫する。</p> <p>○友達に楽しく遊んでもらうための約束やルールを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○ちゃんのおもちゃと、合体してみたら、パワーアップしたよ。 ・○くんがやっているみたいに、点数を書いてみよう。 ・一人五回ずつできる決まりにしよう。 ・優勝した人には、ドングリの賞品をあげることにしよう。 	<p>35</p> <p>●モデルを提示し、児童が見たり触れたりするようにして、「対象」「利用の仕方」「他者とのかわり」「表現」の視点から、児童がおもちゃの工夫を考えられるようにする。…(研究の見通し2)</p> <p>提示するモデル例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚釣り遊び(「たとえる」ことができるモデル) ・ドングリマラカス(「たとえる」ことができるモデル) <p>T:「モデルで実際に遊んでみましょう。自分のおもちゃを工夫するヒントになりそうですね」</p> <p>○グループの児童同士で、実際におもちゃを交換して遊ぶようにして、もっと楽しく遊ぶ方法を考えられるようにする。</p> <p>T:「○さんのおもちゃと、□さんのおもちゃを合体してみると楽しそうですね」 T:「○さんのおもちゃの、～のところが、参考になりそうですね」 T:「みなさんがおもちゃで、～ができるようになると、盛り上がりそうですね」</p>	
<p>○前時に引き続き、楽しくなるよう工夫し、友達に楽しく遊んでもらうための約束やルールを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚釣りの遊びを、役割を決めて協力してつくっているよ。 ・ぼくの迷路より、○ちゃんの迷路の方が難しいな。 ・どうしたらもっと難しいおもちゃにできるのかな。 ・友達のおもちゃをヒントにしてみよう。 	<p>25</p> <p>○活発に活動しているグループを取り上げて紹介し、他のグループの活動の参考にできるようにする。</p> <p>T:「こちらのグループでは、～のところを工夫して、グループのみなさんで楽しく遊んでいますね」 T:「このグループは、迷路をつくった人が集まっていますね。迷路を交換して、自分の迷路と比べていますね。はじめの迷路よりも難しくなったり、面白くなったりしてきましたね」</p>	
<p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリを遠くに飛ばせるように工夫したよ。 ・遊ぶ時の約束は、～だよ。 ・○さんと一緒にやったらうまくできたよ。 <p>○次時はみんなで楽しく遊ぶ活動を知ることを知る。</p>	<p>20</p> <p>●「ふりかえりカード」に本時の活動を絵や言葉で表現するようにして、児童が本時の学習のめあてを達成することができたか確認できるようにする。 【振り返りの視点】①「人とのかわり」②「できるようになったこと」③「工夫したこと」</p> <p>○文例を提示することで、おもちゃのどんなところを工夫したか、どんな約束やルールを考えたか、誰と一緒に考えたかを表せるようにする。</p> <p>「おもちゃの○○をくふうしたよ」 「このおもちゃであそぶやくそくやルールは○○だよ」 「○○さんといっしょにかんがえたよ」</p> <p>○次時はみんなで楽しく遊ぶ活動をするを予告し、次時の見通しがもてるようにする。</p>	
<p>○本時は、自分たちがつくったおもちゃでみんなで楽</p>	<p>○本時は、みんなで楽しく遊ぶ活動をするを伝え、本時の活動の見通しがもてるようにする。</p>	

しく遊ぶことを知る。 ・やった！おもちゃで遊べるね。	5	T:「これからみなさんでおもちゃで楽しく遊びましょう」	
○友達がつくったおもちゃで遊ぶ。 ・○ちゃんのおもちゃで初めて遊ばせてもらったよ。 ・みんなのおもちゃは、面白いね。	35	○あらかじめ遊ぶ順番を前半組と後半組に分けておき、教室を時間内に回れるようにして、遊ぶ時間を十分に確保できるようにする。 ○児童が安全に活動できるような教室環境を整えておく。 (前半組と後半組が交代する)	
○自分がつくったおもちゃで友達に遊んでもらう。 ・ぼくのおもちゃを○ちゃんが、ほめてくれたよ。 ・みんなで遊ぶと楽しいね。	5	○友達がつくったおもちゃを大切に扱うように指導し、おもちゃが壊れてしまった場合には、修理コーナーで直せるようにする。	
○遊んだ感想を伝え合う。 ・○ちゃんのおもちゃは、すごく上手につくれたね。 ・□くんのおもちゃは、ルールが面白いね。 ・○ちゃんは、遊ぶのがとても上手だね		●友達のおもちゃで遊んだ感想や賞賛を言葉にして伝え合うようにする。(次時の振り返りの手掛かりとして扱う) T:「○さんは、□さんのおもちゃで楽しそうに遊んでいますね。□さんにおもちゃの感想を伝えてあげましょう」	
○遊びを終わりにして、後片付けをする。		○遊びの終了の時間が来たことを伝え、後片付けができるようにする。	

5 第10時

(1) ねらい

活動を振り返り、対象や人とのかかわりを通して成長した自分に気付くことができる。

(2) 準備

児童：児童がつくったおもちゃ

教師：振り返りの手掛かり（活動の記録写真、「ふりかえりカード」）

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点(●研究上の手だて)	評価項目(方法)
○本時の活動は、単元始めの自分と現在の自分を比べて、成長した自分を見付けることを知る。 ○本時のめあてを知る。	5	○本時は、これまでの活動を振り返ることを伝え、本時の活動の見通しがもてるようにする。 T:「これまでみなさんが活動してきたことを振り返ってみましょう」 ○本時のめあては、これまでのおもちゃづくりを振り返って、成長した自分を見付けることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時のめあて おもちゃづくりをして成長した自分を見付けよう </div> ●「学習スタート時の思いや願い」「成果物」「活動の発表における他者からの評価」を振り返りの手掛かりとして提示して、児童が単元始めから現在までの自分を振り返れるようにする。…研究の見通し3 ○児童がこれまでにかけた「ふりかえりカード」、つくったおもちゃ、第9時の友達からの感想や賞賛の言葉を手掛かりとする。 ○振り返りの手掛かりを提示して、単元始めから現在までの活動における自分自身を想起できるようにする。	④活動を振り返り、対象や人とのかかわりを通して成長した自分に気付いている。(対話・観察・ふりかえりカード) ④自分自身のよさが分かり、これからも成長できることに気付いている。(対話・観察・ふりかえりカード)

<p>・はじめは、こんなことを考えていたんだな。</p> <p>・少しずつおもちゃが、変わっていったんだな。</p> <p>・○ちゃん、□くん、△くん・・・。</p> <p>・○ちゃんにボンドの付け方を教えてもらったよ。</p> <p>・ここは、最初はどううまくできなかったけど、がんばってできるようになったよ。</p> <p>・ここは、ぼくがとても工夫したところだよ。</p> <p>○これまでの活動における自分自身を振り返り、「ふりかえりカード」に、言葉で表現する。</p>	25	<p>T:「はじめからこれまでの自分自身のことを、詳しく振り返ってみましょう」</p> <p>●「人とのかかわり」「できるようになったこと」「工夫したこと」の視点を問いかけ、児童が学習全体の具体的な自分の取組を振り返れるようにする。・・・研究の見直し3</p> <p>○「人とのかかわり」では、だれとかかわったか、だれとどんなことをしたか、具体的な人の名前を挙げられるようにする。</p> <p>T:「おもちゃでだれと一緒に遊びましたか？名前を教えてください」</p> <p>T:「○さんと、どんなことをしたのですか？」</p> <p>○「できるようになったこと」では、振り返りの手掛かりを見ながら、具体的にどんなことが難しかったか、自分で挑戦してできるようになったことはどこか振り返れるようにする。</p> <p>T:「(おもちゃを指しながら)ここは、上手に貼り付けられましたね」</p> <p>○「工夫したこと」では、(振り返りの手掛かりを見ながら、どこを工夫したのか、自分が試行錯誤して考えたところを具体的に振り返れるようにする。</p> <p>T:「(おもちゃで遊ばせてもらいながら)このおもちゃは、ゴールのところが難しくなってますね。工夫しましたね」</p> <p>●「ふりかえりカード」に、文例を提示して、児童がこれまでの活動における自分を振り返り、言葉で表現できるようにする。</p> <p>文例:「ともだちと○○をしたよ」「はじめよりも、○○がたのしくなったよ」「はじめよりも、○○がじょうずになったよ」「○○ができるようになったよ」「○○をくふうしたよ」「おもちゃをじぶんでつくって、○○なきもちだよ」</p>
<p>○単元を振り返り、自分の成長を発表し合う。</p> <p>・はじめよりも楽しいおもちゃになったよ！</p> <p>・ボンドをつけるのが、上手になったよ。</p> <p>・難しい迷路がつくれたよ！</p> <p>・○ちゃんに友達に教えてあげられたよ！</p> <p>○本単元の学習で得たことを基に、自分が変容したことを喜び、自分の変容を前向きに受け止める。</p> <p>・はじめよりも、できるようになったことが、いっぱいあって嬉しいよ。</p> <p>・これからも、がんばりたいな！</p>	15	<p>○児童が「ふりかえりカード」にかいたことを発表できるようにする。</p> <p>T:「『ふりかえりカード』にかいたことを発表できる人はいますか」</p> <p>○児童が学習で得たことを基に、自分が変容したことを喜び、自分の成長を前向きに受け止められるように、児童の気持ちに寄り添いあたたかく励ますようにする。</p> <p>T:「単元の始めには、思い付かなかったことができるようになったり、以前はできなかったことが自分の力でできるようになったりして、みなさんは成長することができましたね。これからも、もっともっと成長していくことができそうですね」</p>